



王子グループのネイチャーポジティブ経営

~王子の森の挑戦~

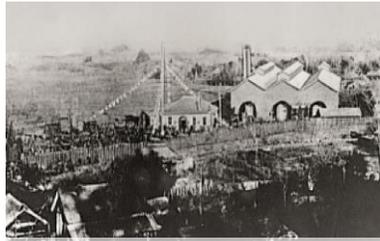
2026年 3月 16日

王子ホールディングス株式会社

OMO 王子の森活性化推進部

はじめに

森林資源に根付いた事業運営



出典：公益財団法人 紙の博物館

渋沢栄一により会社設立

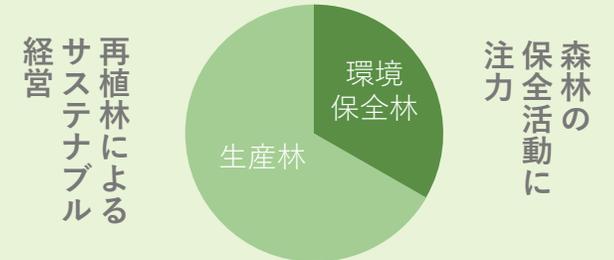


王子造林の設立



セニブラ（ブラジル）

世界の王子の森 63.6万ha



1873

1875

1890

1937

1992

2024

森林資源に根付いた
ネイチャーポジティブ経営を継続

木材パルプ製造開始

東京都王子に工場建設

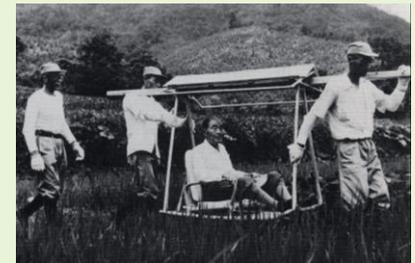
ポロ切れをリサイクル原料として紙を生産

「木を使うものには、木を植える義務がある」

1930年代 当社社長 藤原銀次郎

本格的な海外植林開始

早生樹植林が主流となる



北海道での山林視察の様子

王子ホールディングス

生活消費財カンパニー

家庭紙、紙おむつ

産業資材カンパニー

段ボール紙、段ボール加工、
白板紙、包装用紙、紙器、紙袋



機能材カンパニー

特殊紙、感熱紙、粘着、
フィルム



資源環境ビジネスカンパニー

木材、植林、
パルプ、エネルギー



印刷情報メディアカンパニー

新聞用紙、出版・印刷用紙
情報用紙



コーポレートマネジメントグループ シェアードサービス会社群

- 物流
- エンジニアリング
- 不動産
- 病院
- ホテル
- 保育園 etc.



物流
苫小牧～東京専用RoRo船



エンジニアリング
排水処理プラント設置・運営



病院
王子総合病院(苫小牧)



文化・芸術
王子ホール(銀座)



保育園
ネピアソダテラス(江戸川)

持続的な成長に向けた取り組み



総面積63.6万haのうち、約3割を「環境保全林」として管理し、森林の多面的機能の保全に注力しています



全体のうち
環境保全林の割合

約3割

※社有林のうち、実質的に環境保全林として運用されている山林のおおよその割合

王子グループの森林経営

王子グループの森林経営

森林を健全に育てるために、「生産林」と「環境保全林」を一体で維持・管理しています

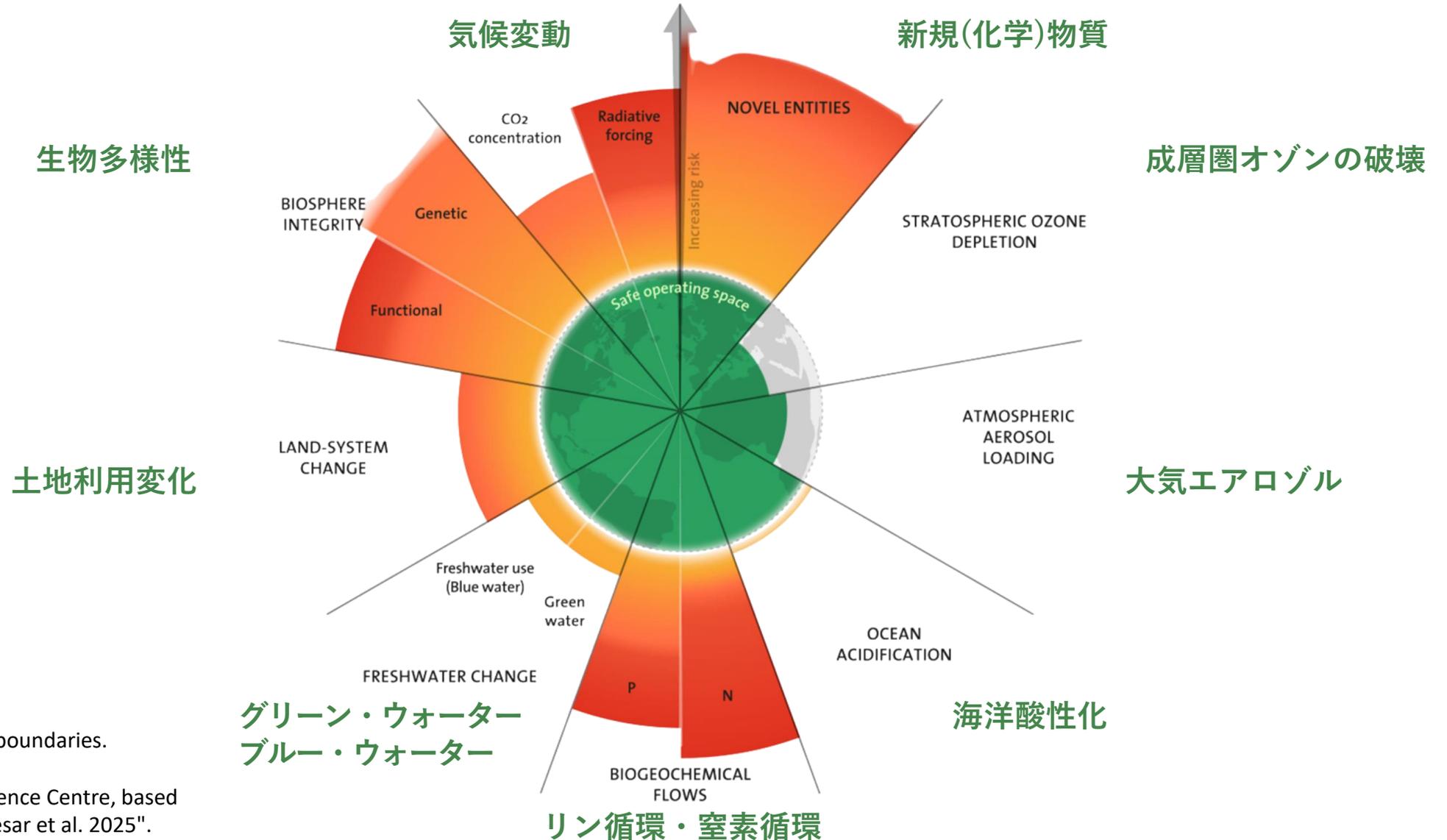
生産林

環境保全林

王子の森の挑戦 1

王子の森の経済価値化

プラネタリーバウンダリー内での成長が不可欠



The 2025 update to the Planetary boundaries.
Licensed under CC BY-NC-ND 3.0.
Credit: "Azote for Stockholm Resilience Centre, based on analysis in Sakschewski and Caesar et al. 2025".

自然資本会計に関する国際的な流れ

自然資本会計の潮流

持続可能性
の概念の始まり

地球温暖化対策
の国際的協調
の取り組みが進展

ネイチャー
ポジティブ
の取り組みが進展

自然資本
会計へ

自然資本会計とは

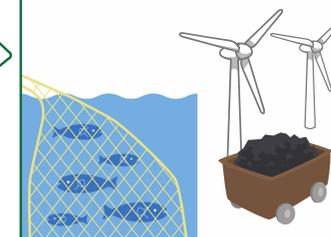
自然資本とは、森林、土壌、水、大気、生物資源等、
自然によって形成される資本（ストック）

これらの自然資本を経済価値として評価し、
会計基準におりこんでいく議論が各国で進行中

ストック
自然資本



フロー
生態系サービス
非生物的サービス



価値
企業と社会への便益



自然資本が経済価値を生む時代へ



健全に管理された王子の森は、水、大気、生物資源等、自然によって形成される自然資本（ストック）を生む

健全に管理されていない森



健全に管理された王子の森



生物多様性
クレジット
などで評価

水
クレジット
などで評価

その他
自然資本を
経済価値
として評価

森の価値見える化プロジェクト



国内社有林のもつ多面的機能の経済価値を林野庁の手法を用いて試算



自然資本会計のためのアクション



経済価値を自然資本会計につなげるために



生物多様性の見える化（国内）



王子の森 生物多様性の重要度マップ



約650か所の国内の王子の森の生物多様性の観点で重要な場所を抽出（第1位：猿払 王子の森）

生物ビッグデータと地形・気候・植生データ等から構築したモデルで、各社有林の生息生物種を予測、生物多様性重要地域(KBA*)との重なり等も加味し、重要度をスコア化

*KBA:生物多様性の保全の鍵になる重要な地域の指標

「王子の森」生物多様性（国内）

生物 **3,000** 種 以上

うち 希少種

約 **1,400** 種

が生息していることが推定される

猿払における王子の森の価値見える化プロジェクトを始動

試算結果をより精確なものにし、自然資本会計につなげるために、自然の価値の評価手法「王子モデル」の検討を開始
北海道猿払村の王子の森を舞台に5要素の価値の見える化に取り組む



猿払(さるふつ)

CO₂

生物
多様性

土壌

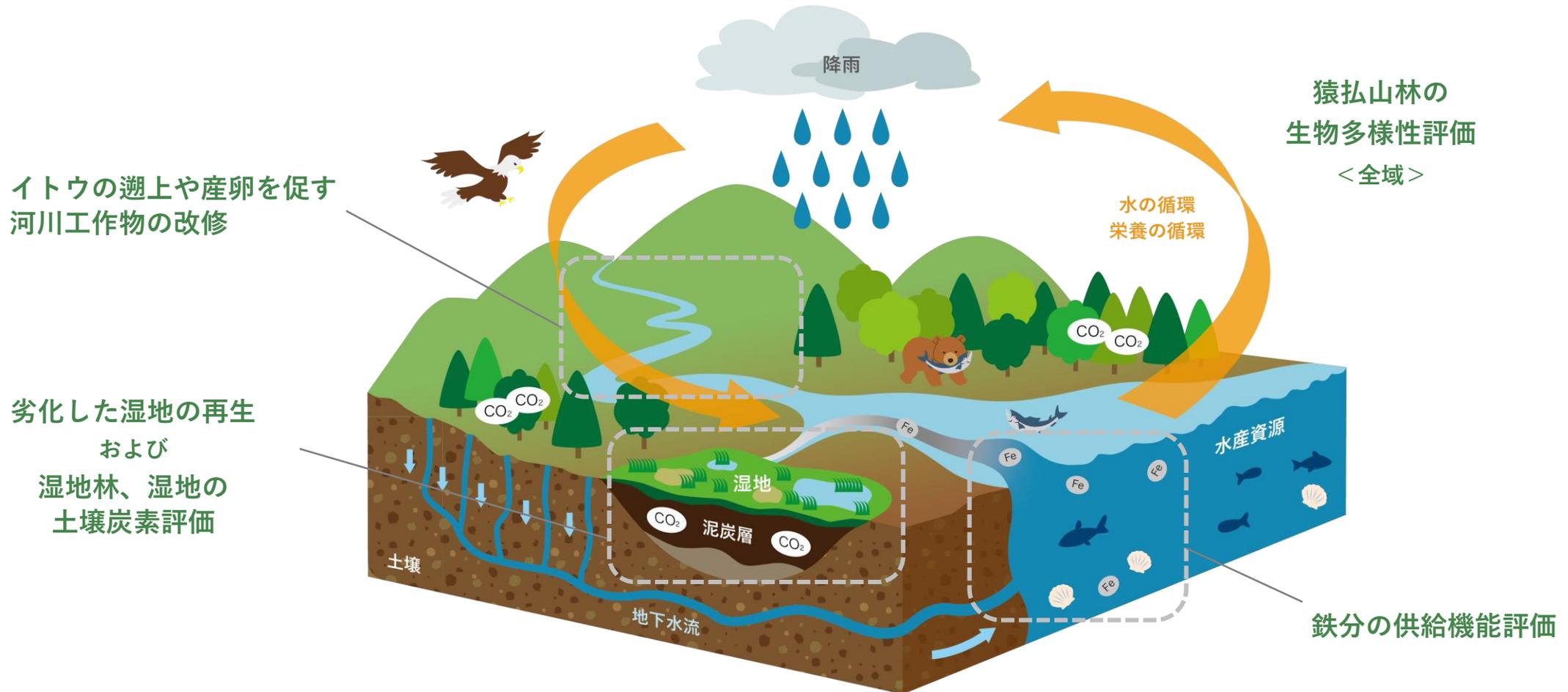
栄養

水

5要素の価値の見える化

【猿払】 5要素の価値見える化プロジェクト

北海道大学と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壌、栄養、水)の価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中



【猿払】 5要素の価値見える化プロジェクト (2)

北海道猿払村での取り組み 〈北海道大学の研究者と共同での調査と自然再生〉

イトウの遡上や産卵を促す
河川工作物の改修



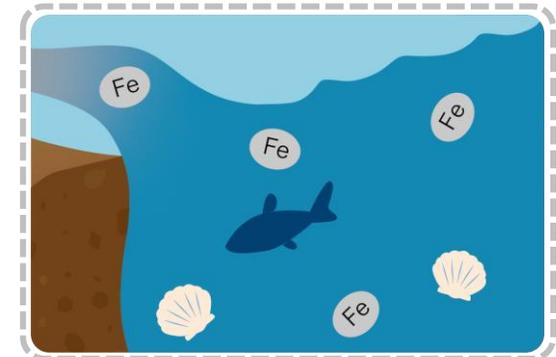
河川工作物（カルバート等）や直線化された小河川の再蛇行化

劣化した湿地の再生および
湿地林、湿地の土壌炭素評価



湿地の水位を上げて乾燥化を防いだり
湿地の土壌中の炭素を評価

鉄分の供給機能評価



湿地～川～海への鉄分供給機能を評価
湿地が海洋生態系へ与える影響を見える化

【猿払】 5要素の価値見える化プロジェクト (3)



北海道猿払村での取り組み 〈海外スタートアップ企業と共同での生物多様性評価〉

現場で取得した生物多様性 データ+AI解析



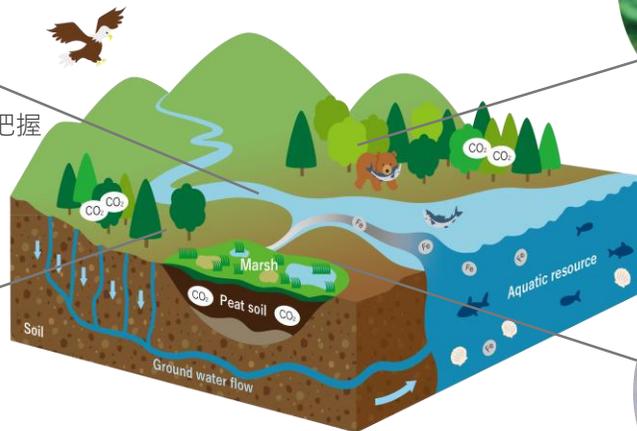
環境DNAの分析による魚類の把握



ドローンによる植生の把握

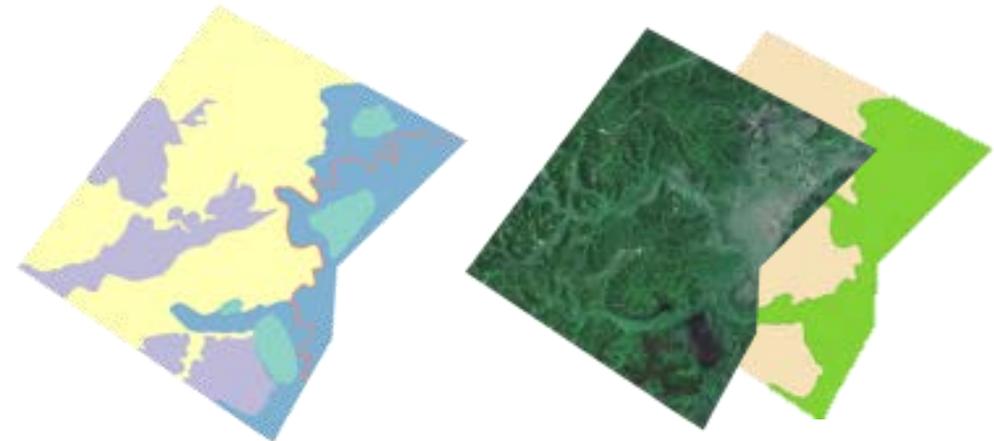


定点カメラによる動物の把握



音声解析センサーによる鳥類等の把握

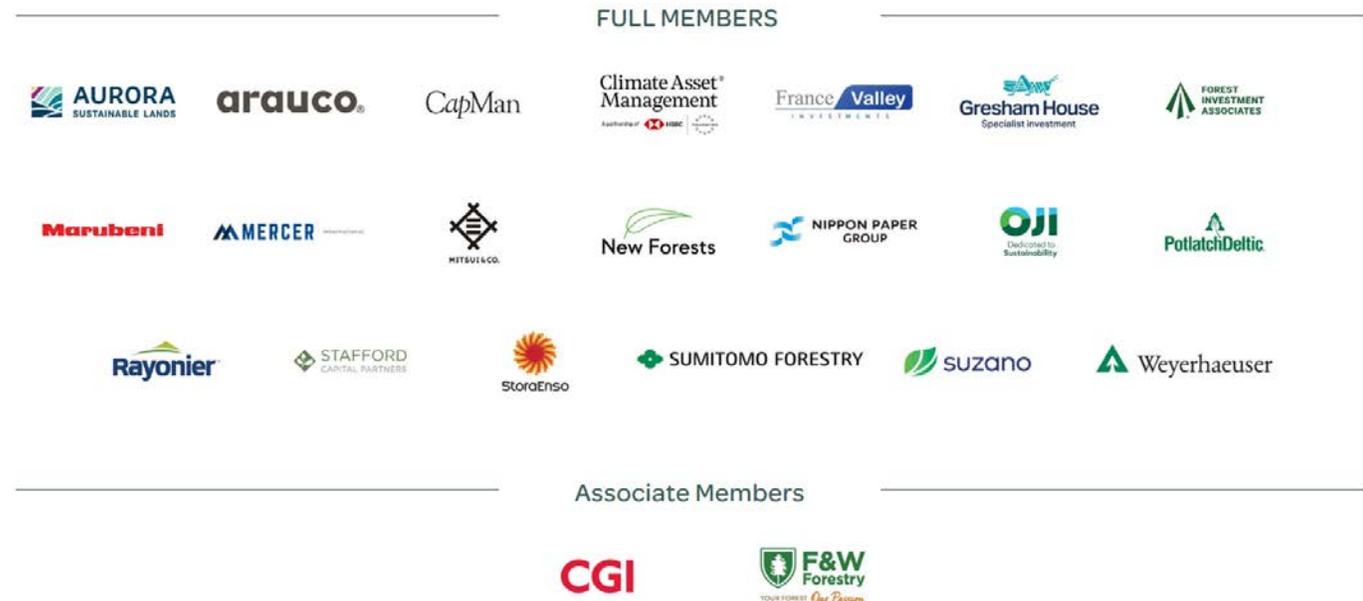
生息地情報の リモートセンシング



世界課題へのチャレンジ 国際団体の設立



- ・ 2023年9月世界の森林関連企業とInternational Sustainable Forestry Coalition (ISFC)設立
- ・ メンバー企業は、国内外22社、世界30百万haの山林を管理・所有
- ・ 2025年11月弊社磯野CEOがChairmanに就任
- ・ 持続可能な森林管理をベースとした自然資本会計時代に向けた国際的潮流を牽引
- ・ COP30にて、Forestry Natural Capital Project (森林自然資本プロジェクト)の進捗報告書を発表 **(Project3)**



正会員20社、準会員2社 (2026年1月時点)

業界や国を超えたグローバルな連携や枠組み作りに積極的に働きかけ、森林を保有する当社の意見を反映させることを目指す



Nature Positive Initiative (NPI) - State of Nature Metrics パイロットプロジェクトへ参加

陸・淡水・海の自然資本の測定基準 (State of Nature Metrics) のスタンダード化に向けたNPIのパイロットプログラムに、民間セクター38社が参加。当社はTNFDをパートナーとし、猿払での生物多様性と生息地データを活用して、NPIの提案する基準の実効性や日本特有の自然の状態を適切に評価して開示できるか等を確認し、NPIへフィードバックしています。(Project 2)



東京大学グローバル・コモンズ・センター (CGC) - Nature on the Balance Sheet 協賛事業へ参加

Nature on the Balance Sheetイニシアティブ (自然資本の価値が経済の意思決定に組み込まれ、企業の財務諸表 (Balance Sheet) に反映されるためのロードマップの策定を目指すコンソーシアム) の協賛事業の一つとして、自然資本会計の導入検証に参画中。国際ルールメイキングへの、日本企業の積極的な参画と意見の反映を目指します。(Project 4)



世界経済フォーラム (World Economic Forum) に加入

世界中から経済、政治等の社会のリーダーが参加する国際組織である世界経済フォーラムの下部組織 Global Future Council の Forest Economy グループに加入。持続可能な林業と森林の多面的機能を両立させる新たな社会システムの検討を進めています。





持続可能な開発のための世界経済人会議

WBCSD (World Business Council for Sustainable Development) に加盟

WBCSDは約250社以上のグローバル企業が加盟する企業主導の国際的なビジネス団体で、世界の企業収益全体の約24%をカバーしています。当社は、Nature Positive Initiative (NPI)、Capitals Coalition、TNFD、Science Based Targets Network 等、自然資本関連のルール形成に取り組む主要機関と共に、GHGプロトコルのネイチャー版である Nature Measurement Protocol の策定に向け動いています。



水資源コンソーシアム WRC (Water Resilience Coalition) に参加

水ストレス流域での淡水資源保護や、気候変動の影響に適応することを通じて、すべての人に清潔な水が行き渡る世界を目指す国連下部組織であるWRCに加入。WRCではプロジェクト地域を流域単位で認識し、企業・NGO・自治体等がともに課題解決を目指すコレクティブアクションを推進しています。当社はWRCのメンバーと共に、持続的な森林管理等を通じて、水資源への貢献を目指します。

“Nature on the Balance Sheet”に向けたプロジェクト展開

ランドスケープの観点で多様なステークホルダーを巻き込んだ展開が重要

Project 4 : 東京大学CGC-NBS 日本コンソーシアム

「自然財務諸表」の構築

- 評価、自然資本会計、財務会計の方法を整合させる
- 業界の実証事例を提示する
- 価値を認識し、価格シグナルを更新する

1. 信頼できるデータに基づく自然資本評価と価値の発見

TNFD レポート
LEAP (2024, 2025)

2. 自然資本会計
ビジネスと社会への
価値の定量化

Project 1 :
5,500億円試算
猿払PJ

Project 2 :
NPI SoN パイロット

Project 3 : ISFC 自然資本プロジェクト

Project 5 : ランドスケープの多様な関係者を
巻き込んだ新プロジェクト検討中

3. 財務会計で
認識される自然資本

4. 自然資本資産/負債の
市場価格化
(例：投資家や中央銀行による)

5. 政府による
自然資本の地位の
誘導と奨励

「自然財務諸表」への価値づけ

- マクロ制御、会計手法、資本規則を自然の新たな価値に
適応させる
- 新たな科学技術を受け入れる
- 自然に関する政治的なストーリーを再構築する

地球規模の課題解決に向けたグローバルの連携



自然資本会計の導入に向けては、業界・国を超えてグローバルで関係者ととともにスタンダードを作ることが重要



Forest Pavilion
Financing the Climate and Nature Smart,
forest based circular bioeconomy Panel
10 Nov 2025

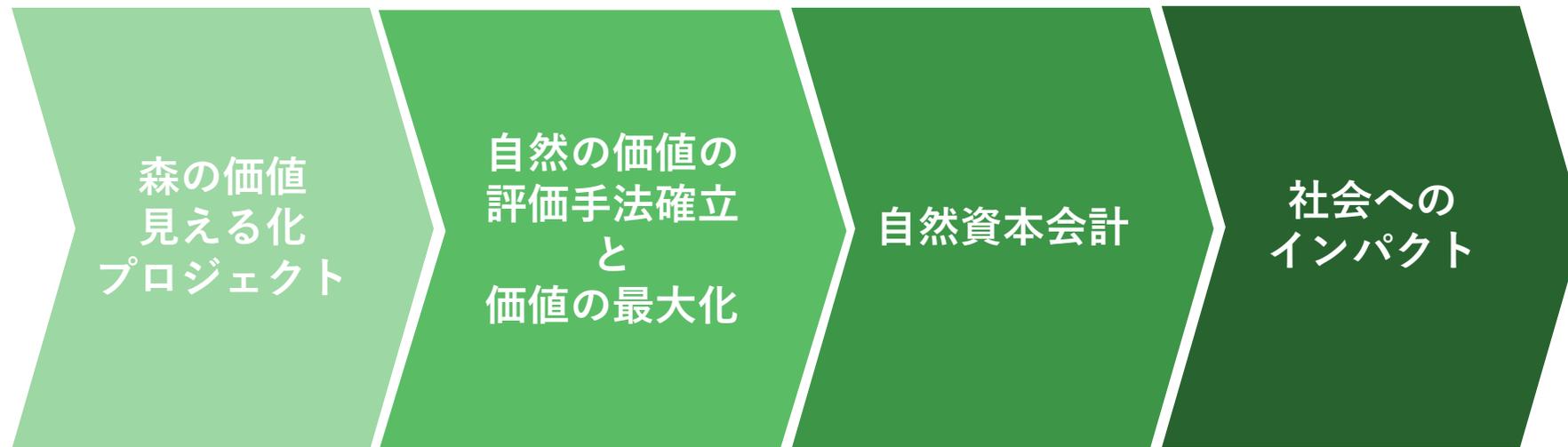


Japan Pavilion ,COP30
Nature on the Balance Sheet – Process and Roadmap
11 Nov 2025

まとめ 森の価値見える化から自然資本会計を目指す

王子グループは、森の価値の見える化プロジェクト等を通じて、自然の価値の評価手法の確立と価値の最大化を目指し、自然資本会計の制度化に積極的に関与していく。

これを通じて、社会にプラスのインパクトを与え、ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルな未来に貢献する。



ネイチャー
ポジティブ
&
カーボン
ニュートラル
な未来へ

王子の森の挑戦 2

王子の森を起点とした地域共創

保持林業とは

伐採時に少量の立木（針葉樹人工林の中に生えている広葉樹など）を残し、高木を利用する鳥などの生物の生息場を維持することを目指す方法です。北欧や北米など海外で実施されており、日本での実施例はまだ少ないのが現状です。

実証実験の概要

北海道のトドマツ林（3.68ha）で、エリア内の広葉樹 75本を残し、生物多様性の定量評価を行っています。具体的には、伐採前後で、①ドローン撮影による森林状態モニタリング、②音声解析による鳥類調査を行い、効果を継続的に把握していきます。

伐採したトドマツ材は、林業と木材製品の新しい価値づくりとして有効活用を検討中です



王子の保持林業の実証実験サイト（伐採直後）



残された広葉樹



保持林業で生産したトドマツを使ったノベルティ

王子の森ツアー・自然学校・企業研修など

- ・旅行会社と協働で、地域の自治体や大学とも連携しながら、一般のお客様向けに王子の森ツアーを実施。
- ・小学生を対象に、地域NPOとも連携し、自然体験を通じて、森～川～海の連環や森づくりの大切さを伝える教育を実施。
- ・紙や段ボールのお客様と、事業所の近くにある王子の森でのワークショップや林業体験会を開催。



王子の森ツアーの様子（静岡県 朝霧山林）



企業研修の様子（静岡県 上稲子山林）

まとめ モノ(製品)・コト(体験)を通じた共創の場へ

王子グループは、地域社会やお客様との共同の取組みを通じ、共創の場として、森の価値を最大化することを目指す

<既存事業>

サステナブルパッケージ
木質バイオビジネス
トドマツ活用 …など

<価値の見える化>

王子の森の価値見える化PJ
自然資本会計制度化への取組み

<愉しみ・学び～非言語的価値>

地域、お客様と連携
ツーリズム
研修領域、自然学校
…など



森の生態系 = 共創の場 ⇒ 新たな価値創造へ



Dedicated to **Sustainability**